令和６年度　東京都立深川高等学校　学校経営報告

東京都立深川高等学校
校長　馬場　智生

１．今年度の取組と自己評価

（1）教育活動の目標と成果、自己評価

＜学校経営・組織体制＞

① 企画調整会議の円滑な運営

年間30回実施。会議前後の組織間の連絡・調整に一定の成果が見られ、効率性や充実度の観点で、中枢会議としての機能の点で、進歩が見られた。課題は、事前調整がスムーズにいっておらず、継続的な検討を余儀なくされた点である。課題に対して効率の悪い対応となり、決定まで長引いてしまった。また会議の在り方について意識改革はできているが、各分掌・学年の報告内容が多いため、課題の具体策を検討するなど戦略的会議の運営は十分ではない。

② 危機管理意識の向上

年間3回の研修会及び、企画調整会議・職員会議等における会議で毎回発信、文書配布、その他掲示等により、危機意識は向上している。学校評価アンケート、各授業評価アンケート、いじめ・体罰のアンケート調査を徹底し、各課題の情報共有、改善策の検討についてスピード感をもつことが課題としてあげられる。

③ 学校の特色の推進と強化

Global Education Network 20、Sports Science Promotion Club（女子剣道部）に指定されており、学校の特色を生かし、文武両道を実践することができた。普通科・外国語コースを問わず、学校全体で英語力の向上を図る取り組みを行った。各種検定試験をはじめ、オンライン英会話、授業における充実した ALT・JET の英語指導、総合的な探究の時間の取組、外部コンテストへの参加、英語合宿（1・2年生外国語コース生徒対象）、海外語学研修（オーストラリアで実施）などを通じて、グローバルな視点に立ち、大学進学を目指す生徒の育成を行っている。また、今年度女子剣道部の関東大会11年連続出場、サッカー部都大会出場、国際ボランティア部の全国高等学校ボランティアアワード出場、中国研究部による通訳コンテスト入賞など、運動部・文化部ともに部活動の活性化が進み、生徒の実績も向上し、成長著しい。

④ 保護者や地域の理解と協力を得るための組織的な外部連携の推進

保護者会（各学年2回）、個人面談（各学年2回以上）、三者面談（各学年・各クラス複数回）を実施し、連携を一定程度図ることができた。生徒指導・進路指導の面で十分な成果が上がらない状況も散見されたことから、指導方針の徹底と連携強化・深化が課題である。また学校運営連絡協議会（年3回）は通常開催でき、情報収集や意見交換を十分に行うことができた。また、学校評価アンケートを実施し、地域や保護者・外部機関等の意見等を反映させ、学校経営の改善の方向性を示せたことは成果である。

⑤ 経営企画室の経営参画意識の向上と教員との連携を密にした経営基盤の強化

予算面や施設設備計画（トイレ工事）など、円滑な教育活動の推進、また感染症対策の物品購入準備など迅速な対応により安心できる教育活動を推進できた。排水管の老朽化による水漏れ、鉄扉の破損、体育館照明、窓鍵の修繕等、緊急の業者対応など迅速かつ適切に対応することはできている。

⑥ 積極的かつ適正な学校の情報発信の推進

学校情報の積極的な発信や学校公開・説明会・見学会・部活動見学等を通じて、広報活動・募集対策活動も、人数制限を行わず、十分な成果を上げることができている。学校見学や説明会の

参加人数は前年度の 5,300 名から今年度は 2,860 名と減少したが、私立高校等の説明会への参加増は予想できており、生徒の主体的な取り組みを説明会等に盛り込み、本校を第一志望としている受検生のニーズに応える説明会の内容となり成果を上げたと感じている。広報図書部を中心とした地道な募集活動により中学生のニーズを維持することができ大きな成果となった。また入学者選抜の倍率も推薦が普通科は3．28倍から3．07倍、外国語コースは2．71倍から1．88倍に減少した。学力検査は普通科1．72倍から1．81倍、外国語コースは1．85倍から1．70倍と中学生の私立志向、通信制への変化がある中、依然倍率の高い人気校として成長できているのは、ひとえに学校全体の募集対策の成果であると確信している。昨年度から男女合同選抜を実施しているが、男女比に大きな変化は見られず、概ね例年並みであった。女子生徒の入学者数が増加することが心配されたが、男子の奮闘が見られる。

⑦ 学校における働き方改革の推進

会議時間の目途を50分以内と設定すること、振替休業日の取得徹底、長期休業期間中の在宅勤務、帰宅を促す声かけ、コミュニケーションを強化し、働き方に対する意識は改善できている。感染症対策として、校務に支障をきたさない範囲で勤務体制を整えている。しかし量から質への転換は継続的な課題であり、適切な業務分担、組織の再編成も次年度の課題として具体策の検討が必要である。そして情報の共有方法（紙文書の削減等）や超過勤務教員（19．6％）についても指導を工夫・改善することが課題である。

＜学習指導・進路指導＞

【学力向上に対する指導】

①生徒の学習意欲や学力を高めるため、基礎的・基本的な知識を基に考えさせることを重視し、問題を解いたり発表したりするなど、思考力を高め、主体的な学習を目指すことは順調に進んでいる。上位層の引き上げ、理系クラス数の定着、読解力向上が課題としてあげられる。

②学習習慣を高めるために、自習室を1年間通して開設し、常時15～20名程度が参加しており、最大約60名にも及ぶ参加は昨年より減少している点は検証が必要である。全体としては、家庭における学習時間が減少しており、生徒の意欲喚起・学力向上に連動しきれていない現状であり、勉強・学習の目的意識を高めるための根源的な議論・研究の必要性を共通認識し、取り組む必要がある。オンライン学習は Teams、スタディサプリの活用により自学自習に役立ち始めている。

③教材の作成、外部模試の結果分析など指導法向上のための教科研修は定期的（各学期3回程度）に行なわれた。模試分析会をその都度行ない、大学進学指導の充実を図っているが、前年度に比し、大学受験スタイルも多様化し（学校推薦型、総合選抜型）、個の生徒に応じた進学指導に苦労している。生徒の意識向上も不足しており、受験準備、スタートが遅いこと、大学入試改革に伴う入試問題の変化、生徒の安定志向が高まっている状況である。

④設定した深川高校学力スタンダードを基に、目標に到達する生徒が大多数であったが、一部生徒は到達できず、追指導を行なった。

⑤習熟度別授業・少人数授業は効果が高く、他教科においても実施したいと考えているが、施設の関係上、場所もなく多展開授業を行うには制限がある。一方体育祭、文化祭、合唱大会や修学旅行という大きな学校行事も順調に実施でき、生徒間の交流も増え、モチベーションが向上し始めたことで、生徒の学習意欲につながっている。

⑥Global Education Network 20 として2名の JET 配置もあり、教科指導（授業・講習など）における教材開発・活用を進めた。Ｃａｎ－Ｄｏリストの活用、実用英語技能検定・ケンブリッジ英検等外部検定試験受験を通じ、実践的な英語活用能力向上に向けた取組が見られた。英検取得者も全員受験と態勢を整えたことにより受験者が増加した。大学受験を見据えた検定試験への意識は向上しており、引き続き次年度も全員受験を取り入れるなど、英語力向上に力を入れる必要がある。**（1級0名、準1級22名、2級191名）**

【進路実現・進路開拓のための指導】

①各学年と進路部の連携は少し不足していたが、3年間を見据えたキャリア教育、進路実現を目指した具体的な指導計画に基づいて、組織的に運営できた。大学入試や公務員・就職試験合格を目指した講習を放課後や土曜日、長期休業日に組織的・計画的に行った。3学年対象の講座は34講座（大学入試対策・公務員対策）

② 外部の教育力（模試、公務員講習、生徒及び教員向け進路説明会・研修会など）を積極的に活用し、生徒の進路実現の意欲向上を図ることができた。大学入学共通テスト受験者は、今年度は大学入試改革の中、昨年度の1．06倍と増加した。（284名）

③ 大学進学実績は、例年より指定校推薦、公募推薦は減少し、大学入学共通テスト受験及び一般受験生徒数が増加した。また進学準備者としての再チャレンジ生徒も減り（全体の4．8％）、大学進学率は89％（昨年86％）と成果を残すことができた。国公立大の合格者は**（6→12→4名）、難関私大（早慶上理）合格者は（8→15→18名）、GMARCH 等（学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政）の合格者はこの4年間で（89→133→89名）とコンスタントに**結果を出しており、上位層の引き上げが少しずつ成果として表れ始めてきている。何よりも最後まで力を発揮させる指導体制の整備・強化は最大の課題であり、受験スタートの意識改革も重要となる。（3年0学期の周知徹底）一方、専門学校、就職希望者は進路達成率100％となった。

④教科・HR・委員会・行事等を通じて、主権者教育を推進したことで、社会の形成者として求められる基本的な力を身につけた。

＜生活指導＞

【生活指導指針に基づいた規範意識の醸成】

①生活指導統一基準を基に、挨拶励行、ルールを守ることなど基本的なマナーを指導しており、生徒の自律心の育成は徐々に成果として表われている。全教員が生徒としっかり向き合い、生徒に主体性を身につけさせる教育方針はようやく定着し始めた。

②けじめある生活習慣の確立のため、授業規律の徹底、朝学習の継続、遅刻防止指導、清掃活動・環境整備活動指導を行ったが、遅刻者への指導は学年により温度差があり、継続的な課題である。

③交差点など危険個所で立ち番指導・駐輪指導を毎日実施、自転車事故根絶を図ったが、通学時・下校時に数件、事故が発生し、近隣からの苦情は昨年よりも減少はしているが、引き続き指導の徹底を図る必要がある。またヘルメットの着用率を増加させることは喫緊の課題である。

④いじめ対策委員会は学校サポートチームを活用しながら運営することができた、スクールカウンセラー、養護教諭を交えて、いじめの未然防止徹底、生徒の状況把握・情報共有を図り、早期発見・対応ができる体制を維持した。

⑤スマートフォンや携帯電話の適正利用指導の一定の効果は見られたが、SNS関連等、ネット上の問題には引き続き警戒が必要である。これに係る社会の動向や情勢を的確に把握し、「深川高校SNS学校ルール」に基づいた指導の徹底を継続して行う必要がある。

＜特別活動・部活動など＞

①各委員会の委員長がリーダーシップを発揮し、活力ある学校づくりを推進・指導できている。

②体育祭・文化祭・合唱大会におけるテーマを生徒が理解し、自らその実現に向け活動できるよう、委員会活動やホームルームで指導し、それぞれのテーマに沿った円滑かつ生徒にとって満足度の高い三大行事の運営準備を行った。感染症解禁後、全ての行事において、多くの工夫を凝らし、生徒が主体的に実施することができた。

③生徒の主体性を大切にした指導を行い、自律心の向上を図ったが、まだまだ生徒の力不足もあり、教員の指導・助言をさらに工夫することが必要である。

※部活動加入率83％（昨年78％）、都ベスト32以上の部活動4部実現

①女子剣道部は関東大会12年連続出場と輝かしい実績を上げた。サッカー部も常時ブロック決勝

進出を果たしているなど強豪校としての実績を維持しており、地域のニーズが高い。学校全体の部活動の活性化し、個人、団体と高いレベルの目標を実現できていると捉えている。

②広報活動や中学校との連携（今年度は部活動見学）などにより深川高校の部活動の素晴らしさを積極的に発信し、部活動見学などへの参加中学生は多く、PR活動は効果があった。今後もホームページの更新を確実に行い、部活動PRを積極的に発信する必要がある。

③生徒同士が切磋琢磨し、技術や体力の向上に努める環境をつくり、体力テストの結果などに反映された。

④教員による指導に加え専門的能力の高い外部指導員を活用し、能力や技術を向上させ、より高い目標を設定し、それを越える喜びを実感させることができた。

⑤部活動の備品や用具などの安全確認を徹底し、安心・安全な部活動が推進される体制整備として、深川高等学校部活動に係る活動方針及び年間指導計画に基づいて、今後も意図的・計画的に実施する。

※社会人との交流、海外交流の実施について

①英語授業時のオンライン英会話、英語合宿、海外語学研修（今年度オーストラリア）や全英連エッセイコンテストやジョン・ニッセル杯などへのコンテスト参加は生徒の英語力向上だけではなく、異文化理解につながり、幅広い国際理解教育の実践となった。

② 進路講演会や防災訓練、探究活動、人間と社会における体験活動など、多様な職業の人と交流する機会を設け、地域社会に関わる意欲、将来の生き方を考える意識向上が見られた。

③ 留学、海外の学校の受け入れなど今年度は積極的に行い香港の中等教育学校訪問による交流、次世代リーダー育成道場からアメリカ・カナダ・オーストラリアへの留学や、アメリカの高校とのメールのやりとり行うなど、出来る限り取り組んだことは大きな収穫となった。

④Global Education Network 20 として JET2名の配置もあり、主に授業を中心として国際交流を図ることができている。今後一層の有効活用が課題となってくる。

＜心身の健康づくり、防災安全教育＞

※東京都統一体力テストすべての項目で平均値を上回る

①心身ともに健康で生涯を送るための基礎的・基本的知識を習得させ、日常生活における実践をとおして、健康であることの喜びを実感させることができた。

②生涯運動を続けるために、グループのリーダーとなって活動することやチームワークの良さを味わう経験を通してスポーツの楽しさを実感させることができた。

③オリンピック・パラリンピック教育の推進

○スポーツが人類の調和のとれた発展に役立つものであることの理解を、教科指導（体育生涯スポーツ）・総合的な探究の時間・部活動実践などの中では、一定程度深められた。

○多様性を尊重し、価値観の違いを認め合う共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献する意欲や態度を育むための指導を、本校のあらゆる教育活動の中に位置づけ、教科指導・教科外指導（特別活動や部活動等）で実施し、一定の成果を得た。

※防災に関する知識・能力および行動力を高める

①全学年で年間４回の避難訓練を行った。雨天時の避難が体育館となるため、オンラインも交えながら、熱中症や感染症対策を講じながら無事終了することができた。また1学年で1月に防災体験訓練を実施した。これらの訓練を継続することで自助共助の習慣化が図れることを生徒に理解させ、忘れないよう重要な訓練として継続して実施していく。

②地域と連携した、非常時に備えた防災組織を作成するには至らなかった。次年度への継続的な課題としたい。

＜開かれた学校作り＞

①本校の施設・人材を活用したサッカークリニック（公開講座）を実施した。

②都立学校開放事業に基づき校内施設を開放し地域に貢献する形で、テニスコート2面、年１２回

（159人）使用した。

（2） 重点目標への取組、主な数値目標達成度、自己評価

（1）生徒・保護者・都民から信頼される学校・教職員としての自覚を高める。

①服務事故防止・体罰防止研修を年3回実施した。（目標達成）

②防止強化研修機会を、様々な規模で、6回設け、問題案件に対する意識啓発を行った。

（2）学力向上、進路実現を目指す

①学校評価アンケートにおける授業関連項目で肯定的回答　目標　90％

	生徒	教員
生徒の学習意欲が高い	60％	71％
理解度に応じた授業の工夫	65％	77％
自学自習習慣の確立	61％	54％

生徒の肯定的回答は目標に及ばず、昨年度に比べいずれも生徒の比率は6～9％減少している。教員についても約10％減少しており、授業改善の習慣化を定着することが今後の成長につながると考える。学校全体として授業評価アンケート、教員相互による授業参観を徹底し、研究授業・研究協議・校内研修会を組織的に行い、引き続き改善に力を入れる。

②放課後・土曜・長期休業日中の講習　　目標　60講座

○長期休業中は夏季休業35講座（公務員講習含む）　冬季休業　2講座　合計37講座実施

○自習室を開設したところ、3年生は随時20名程度、定期考査前では、1・2年生も積極的に参加し、最大約80名と定着し始めた。今後は自学自習のサポートとして進学講座の設置及びオンライン学習の充実の検討が必要である。

③進路決定率　目標100％（進学準備者を除く）　結果　**93．5％**

④国公立、早慶上理、GMARCH、日東駒専レベルの現役大学合格者数

○目標　国公立5名、早慶上15名、GMARCH 以上レベル100名、日東駒専レベル210名

○結果（ ）は昨年　国公立4（12）　早慶上理18（15）　GMARCH89（133）

日東駒専レベル以上151（244）

※工業系大学の合格者が増加し、理系の奮闘が近年顕著である。また、国公立、早慶上理、GMARCH、日東駒専レベルの合格者は、苦戦したが4年間のトータルで見ると十分健闘していると捉えている。

○GMARCH 以上同等レベルなど、昨年度を超えることは困難であったが、目標が明確であれば、特化した学習を根気よく継続することで成果が表れてくる。

⑤公務員内定率　目標100％　**結果100％（2名）**

○希望者の基礎学力・基礎教養・目的意識などの差はあったが、全体指導・個別指導を重ねた結果、目標を達成することができた。早期からの意識づけ、講習体制を充実することで成果は向上する。

⑥専門学校・就職　目標100％　**結果100％**

（3）　部活動や学校行事が活発な学校を目指す

（ア）部活動加入率　目標85％　**結果　83％**

（イ）都ベスト32以上の部活動

目標　5部

結果　**3部　（女子剣道、サッカー、国際協力ボランティア）**

剣道部：11年連続関東大会出場

サッカー部：二次予選進出（都大会出場）、ブロック決勝進出

国際協力ボランティア部：全国高等学校ボランティアアワード出場

（4）規範意識や安全に対する意識の向上を目指す

①遅刻者数の増加

新型コロナウイルス感染症緩和の影響もあり、2学期から授業時程を元に戻したことから、遅刻者が急増したことを考えると生徒の精神面のケアを図ること、また生徒の自律心涵養・態度変容に向けた全校的な取り組みは引き続き必要である。

②自転車等交通事故目標　0件　結果3件　いずれも軽症ではあったが、警察等の協力を得ながら、継続的な注意指導が必要である。

③いじめ　目標　0件　結果　0件

（5）広報活動・募集対策活動の充実を目指す

①授業公開・学校見学会・説明会等の来場者総数　目標　3，500名　結果　約2,850名

推薦及び学力検査における応募倍率は、都立高校ではよく検討している結果であり、募集対策の成果であると考えている。

②部活動体験等来校者

7月から12月の期間は、部活動の見学会を実施したことで、中学生の要望にはある程度応えることができたと感じている。

（6）国際理解教育の推進を目指す

①海外交流

予定していた海外語学研修は、昨年度と同様オーストラリア2週間語学研修を実施した。

応募者は定員を上回るほどで、英語面接、会話等で選考を行った。研修旅行費用は高騰しているが生徒の留学希望のニーズは依然高い。

②コンテストや各検定試験への積極的な挑戦

英語、中国語のコンテストにおいて表彰されるなど、毎年積極的な取り組みにおいて成果を上げている。TEP-CUP では予選落ちとなってしまったが、本校では出場希望者を優先しているので、生徒はよくチャレンジできていると捉えている。

2．次年度以降の課題と対応策

（1）学校運営・組織体制

①報告・連絡・相談・調整を徹底し、組織的な業務運営の強化を図る。

特に主任教諭の職務に対する認識を深めさせ、リーダーシップを発揮できるよう指導していく。

②企画調整会議をより具体策検討の会議とできるよう、各主任に対して内容の整理を徹底させる。

また目標と課題を明確に示し、事前に部会などで具体策を検討しておく。

③服務事故ゼロを目指す

年度当初、強化月間（2回）のみならず、様々な規模・方法で、研修を行う。また教職員相互の意識を高め、声かけなど注意喚起を常時行う点検体制を整備・強化する。

（2）学習指導・進路指導

①生徒の個に応じた目標実現を達成するために、少し高い目標をもたせ、意欲的に学習に取り組めるような自学自習や進学講習の指導を行う。

②教員相互による授業参観を全教員学期に1回実施し、教員の授業力向上の研鑽を図る。

③能力差のある生徒の引き上げや引っ張りのための様々な手立てを行い、生徒の学習意欲の喚起を図り、自学自習の重要性について生徒に理解を深めさせる。

④系統的・組織的な進路指導の充実を図る。3年間を見通したキャリア教育全体計画に基づき、変化の激しい社会情勢や求められる能力・人間力等を生徒に理解させ、進路意識向上を図る。特に進路部と学年、学年間の組織連携、個別連携を、日常的なコミュニケーションを通じて強化し、課題の共有、課題解決の道筋をつけ、組織的な進路指導体制を構築する。

（3）生活指導

①規範意識醸成を全校体制で、強化・推進する。
生徒の自律心を醸成することを念頭に置いたうえで、生徒部を中心とし、各学年との連携を深め、全教員で全生徒を指導することをモットーとして教員による声かけを徹底して行う。
特に、時間厳守の徹底、遅刻防止・授業規律（チャイムスタート）の徹底、けじめのある生活習慣の徹底を図る。また、スマートファンや携帯電話の適正利用、特にＳＮＳやいわゆる「ライン」に係るトラブル未然防止・（発生時の）早期対応などについて組織的・全校的・継続的な取組を推進する。
②保護者との協力体制を確立する。
様々な状況にある生徒の対応について、保護者との連携を密にし、情報を交換・共有することに加え、三者面談、家庭訪問等を行い、学校の方針理解、家庭生活における保護者の役割意識の深化等を図る。保護者会等、保護者同士の情報交換・連帯意識深化等の機会を保障する。
（4）特別活動・部活動
①三大行事の一層の充実、自律的な運営を強化する。
各行事の目標を明確にし、理解を深めさせ、実行委員会・生徒会を活性化し、主体的・自律的な運営を促し、満足感・充実感を高めさせる。
②部活動加入率の一層の向上を図り、更なる活性化を図る。
生徒の部活動に対する志気を高める体制を学校全体で継続する。勉強や学校行事等との両立や、自主性・自律性を高める意識・方法・工夫等を顧問間で共有し、全校的な活性化へ連動させる。そして顧問教諭と部員間の信頼関係、部員同士の信頼関係の構築を図るための工夫を、部会や顧問会議等を通じて図る。
（5）広報・募集対策活動の充実
①ホームページの一層の充実を図り、更新の頻度アップ・内容工夫、生徒の活動状況、保護者・地域の方々を含めた都民への情報発信に努める。
②充実した教育内容・施設設備などを直接的・間接的に伝える機会である学校公開・説明会・見学会・部活動体験等を一層充実させる。（小学生を対象とした説明会を年間1回実施しる）
（6）国際理解教育の一層の推進
①「国際理解」を目標とした、授業・特別活動・部活動などを意図的・計画的に行う。
②来日高校生との交流機会、語学研修、英語合宿、海外留学を充実させるべく、国際理解教育委員会と当該学年が連携し、生徒の意識を高める。
③新たに創設された Tokyo Metropolitan Global Education Network School Premier 20 指定校としての授業・事業を充実させ、英語の各技能（英検等合格者数増）を高め、実践の場面を活用し、国際理解を推進する。

以上